

第51回「議員と語ろかい」報告書

総務環境常任委員会（No. 1）

開催日	令和 8 年 5 月 13日 15時 00分 ～ 16時 30分		
開催場所	霧島市役所 議会棟 4 階 第 3 ・ 4 委員会室		
団体名	アイフレンドきりしま	参加人員	7 人 (男 3 人 : 女 4 人)
出席議員	久保史睦、木野田誠、稲留誠也、町田和己、塩月大志郎、今村純子、野村和人、徳田修和、前島広紀		
役割分担	班 長（久保史睦）副班長（木野田誠）記録係（稲留誠也）		
テーマ及び具体的な内容	視覚障害者の日常生活における課題 ・ 道路インフラ整備に関して ・ 交通システムに関して ・ 同行援護の基準時間に関して		

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な話題等

・道路インフラに関して

◆点字ブロックの劣化や途中で切れている箇所、工事後に撤去されるものなど、日常生活に大きく支障をきたしている。また、市役所周辺は黄色以外のブロックもあり、黄色を頼りとする弱視の人からすると見えにくいため、不便に感じる。色の基準はあるのか。

◇基本は黄色だが、努力義務なので黄色ではない箇所があったり、色が落ちている箇所もある。

◆そもそも点字ブロックが無い箇所が多い。市内でも国分隼人とそれ以外で地域格差も感じる。

◆横断歩道の白線が消え掛かっているのも、通行に支障をきたす。特に横断開始位置が分からなくなり、大きな道路は恐怖を感じる。

◇白線は足の感覚である無しが分かるのか。

◆足では分からないが、全盲でも白杖の感覚や、弱視だと色を頼りにして横断することがある。

◆音響式信号も少ないように感じる。また、夜間は音響が停止するため、非常に危険を感じる。車の走行音で判別することもあるが、最近は音の小さな車も増えているため、より危険を感じる人が多い。

◆歩道と車道の境界が分かりにくかったり、蓋の無い用水路があることで、転落の危険性を感じることもある。

・交通システムに関して

◆移動は公共交通機関が前提となる生活だが、バスの減便が著しく困っている。特に最終便が早まったことにより、外出に制限が出たりと大きな影響がある。

◆Mワゴンは停留所の場所が分かりにくく、全盲の人が一人で利用するのは厳しい。運転手による乗降サポートもあまり期待できない。

◆タクシー利用も選択肢だが、費用面の負担が大きい。「いきいきチケット」で全額利用ができるとありがたい。

・同行援護に関して

◆霧島市の利用できる標準時間は20時間となっており、他市と比較して短い。使える時間が短いと、買い物や映画鑑賞は余暇活動となり、実質的に外出を制限されているように感じてしまう。

◆霧島市内の事業所が不足していることが課題に感じる。他市の事業所を利用することもあるが、利用者側が遠慮してしまうケースもある。

◇街中で見かけた場合、一市民として何か手伝えることはないのか。

◆いきなり体に触れるのではなく、まずは声掛けがあると助かる。

ガイドヘルパー講習会を受けている人とそうでない人では対応力が違う。小学生とかは学校で知る機会があり、理解が深まっていると感じる。

地域住民からいざという時に協力を得られる方法として、特に大人向けの講習会の機会をもっと増やして、理解を深める取組を進めてほしい。